

市民会館の在り方検討報告書【概要版】

検討の背景と目的

安城市民会館(以下「市民会館」という。)は、昭和47年に本市の「文化の殿堂」として建設されました。平成26年度にホールの大規模改修を行いました。施設全体の老朽化が進んでいます。また、多様化する利用者ニーズへの対応が難しくなっているほか、舞台設備の劣化等の問題が顕在化しています。

生涯学習推進計画(生涯学習・スポーツ)(令和8年3月策定)においては、「利用者の安全と快適さを確保するとともに、市民会館等老朽化した施設の整備を含めた今後の在り方を含めた有効な活用方法の検討」の必要性が明記されています。さらに、市では令和6年度から庁舎整備の検討を進めており、市民会館は駐車場を介して隣り合う位置に立地していることから、この機会に市民会館の在り方を検討する必要があります。

本報告書は、市民会館の現状と課題を整理し、今後の施設整備の方向性を検討する上での基礎資料として取りまとめています。

所在地	桜町18番28号
用途地域	近隣商業地域
敷地面積	11,154㎡※建築確認申請より
延床面積	6,667.97㎡
建設年度(築年数)	昭和47年(53年)
構造	RC造3階建て(一部鉄骨)
機能	ホール、楽屋、リハーサル室、展示室、会議室、和室、レストラン等



市民会館外観



サルビアホール



展示室



大会議室

市民会館の現状と課題

○現況調査

市民会館について、現地確認と運営者ヒアリングを行い、建築・設備・運営面での問題点を整理しました。

- 施設(全般) … 数か所の雨漏り、外壁の劣化、授乳室や親子室など利用者ニーズに応じた諸室の未設置、駐車場の混雑
- ホール及び関連諸室 … ホールやリハーサル室の防音性能の低さ、客席の座席幅の狭さ、オーケストラピットの利用の少なさ、バリアフリーの一部未対応、エレベーターの不足、楽屋トイレの不足、和室楽屋の使いにくさ
- 玄関・ホワイエ … 開館前の屋内待機場所の未設置、客用洋式トイレの不足
- 設備 … 空調設備の不具合、舞台設備の劣化、舞台袖の空調の騒音
- その他 … ピアノ庫のシャッターの不調と湿度管理機能の未整備、ピンスポット室の音漏れ、搬入口の道路の狭さ、展示室の部屋の狭さと柱による制約

○利用団体ヒアリング

市内のホールを継続的に利用している10団体(音楽5、演劇3、伝統芸能1、その他1)にヒアリング調査を実施しました。(以下、回答抜粋)

団体	活動や発表・公演等の場所について	市民会館の良い点・悪い点	市民会館に適した客席数、新たに追加すべき機能、求める役割
音楽団体	<ul style="list-style-type: none"> ・市内に音出しできる場所や音楽に特化したホールがない。 ・安城市文化センター(以下「文化センター」という。)は響きが悪く、舞台が狭い。 ・楽屋が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・客席数が多いため、集客が難しい。 ・舞台袖の使い勝手が悪い。 ・空調の効きが悪い。 ・リハーサル室では単独での利用や、防音性能が低く音出しができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音響設備や備品の整った1200～1500席の大ホールと市民が使いやすく質の高い小ホールが備わっているとよい。 ・舞台と同規模のリハーサル室が欲しい。 ・日常的な練習場所が欲しい。 ・公演の前後等に利用できるカフェや飲食スペースが欲しい。 ・文化育成の旗振り役になって欲しい。 ・様々な施設を文化面で支援できる部門や、事業をコーディネートする組織が欲しい。
演劇団体	<ul style="list-style-type: none"> ・安城市昭林公民館(以下「昭林公民館」という。)や安城市中心市街地拠点施設(以下「アンフォーレ」という。)は袖が無く用途が限られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・客席数や舞台サイズが大きく演劇に向かない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・200～300席のリハーサルで立ち稽古ができる等、設備が整ったホールが欲しい。 ・子どもが気軽に利用できるスタジオ等、日常的に集える場所が欲しい。
伝統芸能団体	<ul style="list-style-type: none"> ・文化センターは楽屋が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・客席数が多すぎる。 ・客用洋式トイレが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・100～150席のホールが併設されていると良い。
その他展示など	<ul style="list-style-type: none"> ・文化センター正面の駐車場区画数が少ない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に訪れる場所、親しみやすい場所になって欲しい。

○利用団体アンケート

市内のホール(市民会館、文化センター、アンフォーレ、昭林公民館)を日頃から利用している団体を対象に、活動状況や現状の課題、ニーズなどを把握することを目的としたアンケート調査を実施しました。

市民会館では、「1,001~1,200人」の大ホール及び「101~300人」の小ホールを併設する構成が望まれている傾向がみられました。

さらに、市民会館の周辺環境として、車や公共交通機関でのアクセス利便性が重視されていると分かります。特に、駐車場・駐輪場の十分な確保が求められています。

図 市民会館に適した客席数(n=159)【複数回答可】

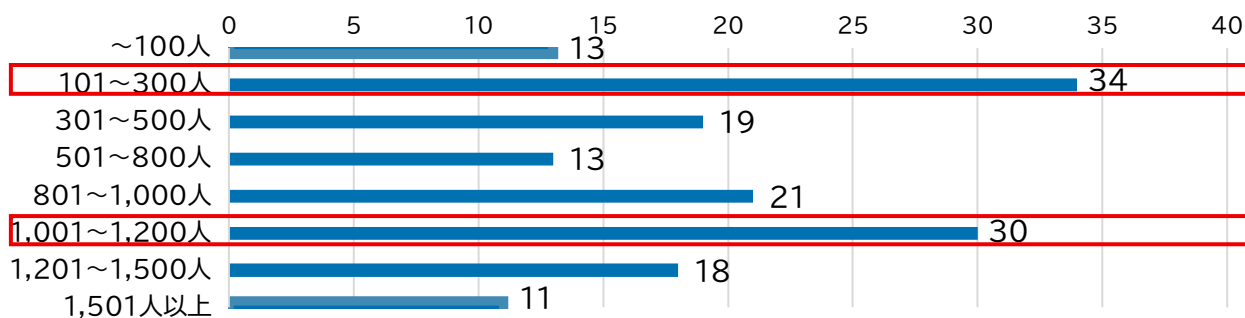
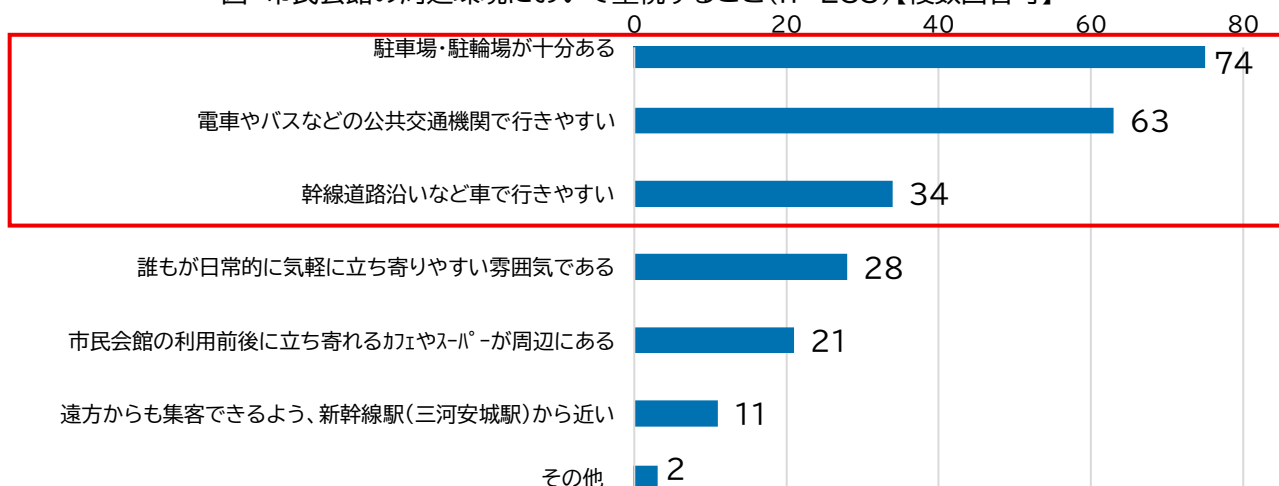


図 市民会館の周辺環境において重視すること(n=233)【複数回答可】



○プロモーター等ヒアリング

市民会館の利用実態や課題の整理のほか、適切なホールの客席数や市場性、今後の利用見込みを把握することを目的として、プロモーターやプロ実演団体4団体にヒアリング調査を実施しました。

団体	主な意見
実演団体	<ul style="list-style-type: none"> 客席数は1,300~1,400席あると採算的に丁度良い。 楽屋が少ないほか、空調設備に不具合が生じており、使い勝手があまり良くない。 十分な広さのリハーサル室があると良い。
プロモーターA社	<ul style="list-style-type: none"> 名古屋以外の場合は刈谷総合文化センターや東海市芸術劇場が第1候補。 ホール客席数や舞台の広さは適正であるが、1,500~1,600席でも需要はある。
プロモーターB社	<ul style="list-style-type: none"> 名古屋市を中心に探すことが多い。 1,500席あれば候補になるが、市民利用を想定し、2階席を閉鎖可能な2層構成とすると良い。
マスコミ企業	<ul style="list-style-type: none"> 名古屋市での公演が多く、次に刈谷市、東海市、豊橋市が候補に挙がる。 他施設との差別化を図ることが重要である。

求められる市民会館の在り方

○求められる役割

①質の高い文化芸術を「届ける」ための環境整備

【現状・課題】

- ・外壁、屋上防水、舞台設備等の老朽化
- ・客用トイレ数の不足、洋式化への未対応
- ・出演者エリアのバリアフリー未対応
- ・時代の変化に応じた舞台の広さ・設備への未対応
- ・駐車場の混雑

【方向性】

- ・施設の安全性や快適性を確保する。
- ・来館者及び出演者双方にとって安全かつ利用しやすい環境の整備を図る。
- ・質の高い公演や文化事業を安定的に実施できる劇場空間・施設環境の確保を目指す。

②文化を「創る・育てる」ための環境整備

【現状・課題】

- ・防音性能を備えた練習室・リハーサル室の不足
- ・文化育成の旗振り役の確保

【方向性】

- ・市民や文化団体が日常的に活動・創造できる環境を充実させる。
- ・興行利用から市民利用まで幅広く対応できる施設構成や客席数の在り方を検討する。
- ・市民の文化活動の中心施設として、人材育成や活動支援の機能について検討する。

③文化を「つなぐ・ひらく」機能の充実

【現状・課題】

- ・市内の他ホールや、地域の多様な主体との連携
- ・ホール規模・機能の整理による特化
- ・情報発信機能や充実した共用スペースの整備
- ・誰でも文化に触れられる機会づくり

【方向性】

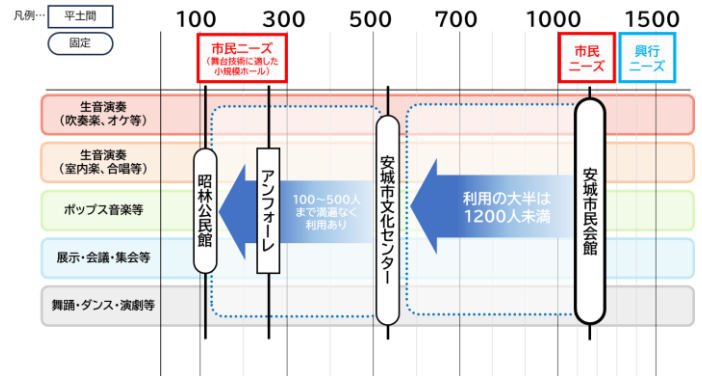
- ・市内の文化施設との連携や役割分担を整理し、地域全体で文化を支える仕組みづくりを進める。
- ・情報発信機能や交流スペースの充実を図り、文化活動の可視化と参加機会の拡大を図る。
- ・多様な人々が文化芸術に触れ、関わる事ができる開かれた拠点づくりを目指す。

○求められるホール規模と機能

市民会館における客席数の方針

市民会館のホール規模について、利用実態や市民ニーズを踏まえると、大ホールは1,000～1,200席程度が適切と考えられます。この規模であれば、市民の文化活動や発表のほか一定の興行利用にも対応可能です。

また、文化団体の発表会や小規模イベントに対応できる100～300席程度の小ホールの併設を望む声があったため、今後、他の文化施設との役割分担や相互補完的な運営の観点から検討を深める必要があります。



整備手法の比較

想定する工事内容、工事期間、休館期間を整理しました。なお、工事内容により、工事期間や休館期間は変わる可能性があります。

項目	大規模改修	建替え	
		現敷地建替え	移転建替え
使用可能年数	R7年度時点で残り37年程度 (耐用年数目標の90年まで使用した場合)	90年 (耐用年数目標)	
工事内容	設備内装改修工事	解体工事 新設工事	新設工事 解体工事
工事期間	約2年	約5年	約3年
休館期間			なし